

かごしま 祭時記

祭りを守るために
変えながら続けて行く

峯苦集落班長

みねとま とくぞう

峯苦 督三 さん(67)

昭和40年代に峯苦、中原、堂園、取遣の各集落が合併し、上別府集落となりましたが、氏神祭りは今でもそれぞれの地域で行われています。髪を引っ張る時のコツはこめかみの髪を上に向かって引っ張ること。これが一番痛いんですよ。昔、氏神祭りは女人禁制でしたが、次第に男性の数が減り、続けるのが難しくなったため、決まり事を徐々に変えていったようです。これからも集落のみならず、話し合いながら、氏神祭りを守り、続けていきたいと思えます。



氏神祭りが行われる氏神本殿→

氏神祭り

南九州市知覧町／峯苦公民館
ちらんちょう みねとま

髪を引っ張り神を引き寄せる 一年締めくくりの祭り

12月16日、知覧町西部の峯苦公民館敷地内にある氏神本殿から祝詞の声に混ざり、「あい たっ！（痛い）」「上さいっぺ（上に強く）引け！」という声が聞こえてきます。これは氏神祭りで髪を引っ張られる人たちの声。知覧町では各集落で氏神祭りが行われていますが、髪を引っ張るといって珍しい風習は峯苦集落だけに伝わる風習です。

「氏神様は450年も前からこの地に祭られています」といわれています。髪を引っ張る風習の起源はわかりませんが、髪を神にかけて、「神を引き寄せる」という意味があるようです。髪を引っ張っていいのは、祝詞をあげている間だけ。神主さんや他の氏子の髪を強く引っ張るんです。「こう語る集落班長の峯苦督三さんも氏子の一人。祭りは、氏子となっている家の世帯主だけで執り行われ、供え物や料理などは持ち回りで準備をします。当日は、昼から各家庭の世帯主が公民館に集まり、本殿のしめ縄を作り替え、神体には紙で作った衣を着せ、午後4時頃からの祭りに備えます。祭りの祝詞が始まる

鹿児島には、古くから受け継がれてきた個性豊かな伝統行事祭りが残っています。今回はそんな伝統行事の中から「氏神祭り」をご紹介します。

と、氏子たちの髪を引っ張り合いが始まります。時には祝詞を上げる神主の髪まで引っ張る人も。「強く引っ張らないと神様が寄ってこない」といわれているそうです。祭りが終わると直会が行われますが、昔はその準備が大変だったと、氏子の峯苦忠昭さん(85)と峯苦兼雄さん(81)が教えてくれました。「本来祭りは男性だけで行われ、一年を締めくくる忘年会のようなものだった」と忠昭さん。「当番の男性は一週間前から甘酒や、椀ぎり」という大根とサバの味噌煮、のんこ」といって煮しめなどを作り、家々に配ったものです」と兼雄さん。現在は女性も祭りに参加し、料理は簡素化されましたが、髪を引っ張り合って神様を呼び、酒宴を開いて一年を締めくくるといって伝統は続いています。



南九州市

南九州市は、平成19年に読娃、知覧、川辺の3町が合併して発足した総人口37,933人(平成26年9月30日現在)のまちです。薩摩半島南部にあり、豊かな自然から生まれたお茶が特産品として知られています。写真は「知覧特攻平和会館」。第二次世界大戦中に攻撃基地のあった知覧で、陸軍特別攻撃隊員の遺品や関係資料を展示し、平和の尊さを後世に伝え続ける施設です。全国から多くの人々が見学に訪れています。